

20.防災行動力とはなにか？その気になれば力はつく

災害発生時で大事なことは、自分の命を守り、周りの人たちを助けられる能力を発揮することです。それには、それまで培った知識、知恵、判断、先を読む力が大事です。自分が助かって、助ける立場になった時、災害がどのようなものでどうなっていくのかを想定することが大切です。災害で怖いのは地震でも土砂災害においても、二次災害です。ものによっては二次災害の方が手ごわいこともあります。したがって、発生への対応には状況判断が大事なことで、その場合には周りの人とのコミュニケーションが大事です。その基礎は、正しい知識と適切な情報収集になります。ここで、都合の良い判断をすると大きな被害へと発展することもありますので、基本中の基本になります。そして、次は、自分たちで対応可能なことと専門機関ができることとの峻別です。できないことや不慣れなことをするのは危険です。その仕訳と連絡方法、確認方法を共有していくことが大事になります。実際には、様々な意見が出てきますので、意思統一を図って連絡を取り合いながら、修正改善をしていくことがプロセスとして肝要なことになります。

個人や地域ができることは限られてはいますが、一番の強みは地域並びに住民が互いによく知っていることになりしますので、日ごろからさまざまに活動されている方々とのコミュニケーションが発揮される時でもあります。行政的には様々な縛りがあるものでも、地域力でカバーできることは多いので、日ごろから町内会や自治体を通じて地域防災リーダーとの情報交換をしておく必要性を強く感じております。

災害も一段落すると、安心感もあって、貴重な経験も薄れてしまいがちですが、例年の避難訓練の時には集まって整理しておくことも次世代へつなぐ意味で大切なことだと思いますし、学校教育の中でも語り部として活用されると意味のあるものになるような気がします。防災行動力といっても、できることをする以外はないのですが、怖いのは間違っているというか、二次災害を誘導するようなことは避けたいので、やはり事前にそれ相当の知識と地域の特性を、みんなで共有しておく必要があり、普段から機会ごとに防災の話題が出るようになる雰囲気が欲しいことです。

町内会などでは災害時の役割分担が決まっていますが、実際には被害者になっている可能性もあるし、家庭の事情もありますので、臨機応変というか事態に合わせた対応も必要になります。東日本大震災時の経験から言うと、突発的なこともあって、最初から整然と実践するのは無理で、やりながら修正するということになりませんが、その時に重要なのはリーダーの存在です。それなりのリーダー研修は行われているのですが、地域の特性を十分に理解してマネジメントしていかないと難しいこともあります。何でも自前では無理であることを理解して、できる人をお願いすること、行政など機関に頼るところは頼るといふ姿勢が良いように思います。よく言われますが、頑張りすぎないことが大事だといわれます。無駄な頑張り避けるためにも、防災行動力の原資は災害への関心、地域知とリスクの把握、地域資源の活用ではないかと思えます。継続は力なりといいますが、いつ来るかわからないものへの対応には知恵がいるということだと思えます。